

令和 5 年度 高専連携事業

栗山高校 1 年生

「栗山と福祉」授業概要資料

栗山町立北海道介護福祉学校

【タイトル】 栗山と福祉（第1回）

～出張講義 くりやまの福祉の歴史と今～

【授業概要】

日	時	令和5年5月19日（金） 14:20～15:10
場	所	栗山高等学校 視聴覚室
対 象 者		北海道栗山高等学校1年生（50名）
担 当 者		高倉淳氏、栗山高等学校教員清水瑛樹先生 （北海道介護福祉学校学校長、専任教員1名および高専連携支援員聴講）
テ ー マ		くりやまの福祉の歴史と今
スケジュール		14:20 高倉氏講義 15:10 終了
使 用 物 品		【栗山高等学校学校備品等】 プロジェクター1台

【授業の様子】



【備考】

- ・栗山町に北海道介護福祉学校が出来た経緯
- ・福祉についてとその歴史
- ・今後社会人になるにあたって大切な事

※上記3点について高倉氏よりお話があった

【タイトル】 栗山と福祉（第2回）

～歩行介助と車椅子介助～

【授業概要】

日	時	令和5年9月14日（木） 10:45～12:35
場	所	北海道介護福祉学校
対	象	北海道栗山高等学校1年生（49名）
担	当	北海道介護福祉学校専任教員および高専連携支援員
テ	ー	マ
スケジュール		歩行の介護、車椅子の介護の基本
	10:45	講義（介護のイメージ、介護に必要な心構え、高齢者の状態変化）
	10:55	体験演習Ⅰ：椅子への着座基本動作、介護動作
	11:10	歩行介護について（杖の説明）
	11:15	休憩
	11:25	体験演習Ⅱ：車椅子の基本的機能、操作体験
		体験演習Ⅲ：車椅子操作体験（段差、スロープ、砂利道）
	12:00	本日の振り返り（体験で気づいた注意点、分かったこと）
	12:25	終了

※体験演習Ⅰ、ⅡおよびⅢに関しては、文末の備考欄参照

使 用 物 品 【北海道介護福祉学校備品等】

車椅子25台、段差のセット（段差、スロープ、砂利道）T字杖、多点杖
ロフトランド杖、松葉杖

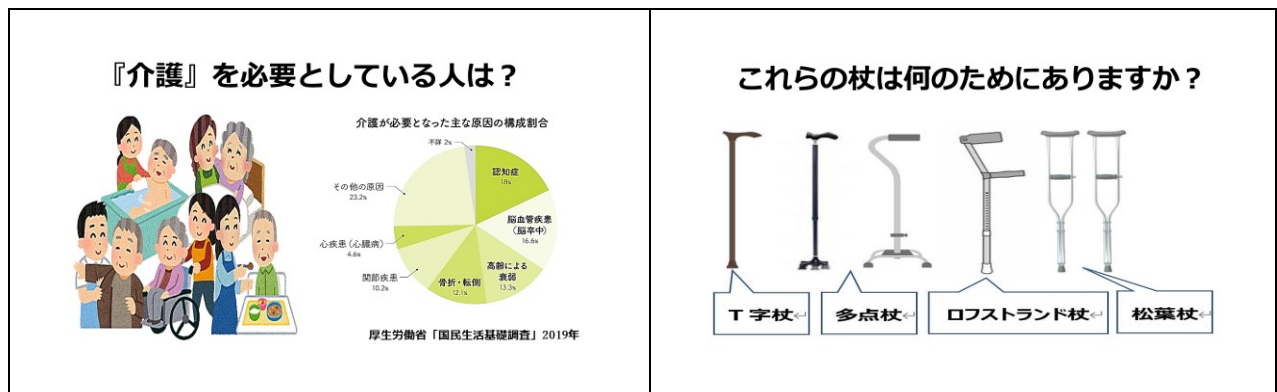
【留意点】

1 体験を通して気づく大切さ

- ①自分とは違う他者の気持ちを理解することは容易ではない。
- ②相手と接し、話を聴くことで、その人の気持ちを汲み取る。
- ③自らが介護を必要とする人を疑似体験することで考える契機に。
- ④介護を必要とする人との信頼関係をつくるための心構えを養う。

【使用資料（パワーポイント一部抜粋）】

介護に必要な心構え ① （接遇）	介護に必要な心構え ②（言葉掛け）
○ 相手に対して配慮すること（心身の状況に応じて） → ご本人ができないこと、継続してできること 必要としていること・・・ ○ 互いが心地よく過ごすための、思いやりの気持ちと行動 ○ 身だしなみや言葉遣い、態度も意識していく	① 相手に何かを伝えるとき・・・ ② できるところを協力してもらうとき・・・ ③ 相手に確認をするとき・・・ 例えば・・・ ○ これから～をしますが、～でよろしいでしょうか？ (説明) (同意) ○ ～を希望されているんですね。では、～を行いませんか？ (意向) (提案) ○ 今のご気分はよろしいですか？ では、～の準備をしませんか？ (観察から確認へ) (協力への促し)



【備考】

1 椅子への着座基本動作、介護動作

① 私たちが普通に立ち上がる際

- ・膝位をつかむ
- ・膝より頭を前に出して前傾姿勢をとる
- ・頭を前に出すことでお尻が上がり立ち上がれる
- ・立ち上がった際は足を肩幅に広げ姿勢をまっすぐ正す

② 立ち上がりの介護をする際

- ・正面には立たず、ふらついても支えられる位置（横）に立つ
- ・その方の出来る力を発揮してもらえよう過度な介護をしない

※②の介護をするにあたり①を自分で体験し、どのようなことを意識すればよいのかを考えてもらう

2 車椅子の基本的機能、操作体験

① 車椅子はどのような時に使用するのか

② 車椅子の名称説明

③ 車椅子の広げ方、たたみ方

3 車椅子操作体験（段差、スロープ、砂利道）

- ・2人1組になり段差、スロープ、砂利道、細い道を体験（利用者役、介護者役両方体験）

【タイトル】 栗山と福祉（第3回）

～車椅子で栗山公園に外出～

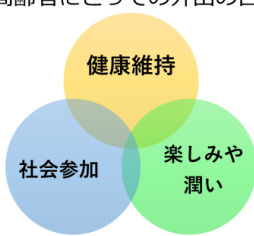
【授業概要】

日	時	令和5年9月21日（木） 8:45～12:35
場	所	北海道介護福祉学校、栗山公園
対	象	北海道栗山高等学校1年生（47名） 北海道介護福祉学校1年生（19名） 計 66名
担	当	北海道介護福祉学校専任教員、非常勤講師および高専連携支援員
内	容	移動をともなう介護の体験、車椅子で町内を外出
スケジュール		9:00 講義・説明（外出する目的、外出にあたっての注意点） 9:30 栗山高等学校学生 介護福祉学校出発 9:45 北海道介護福祉学校学生 介護福祉学校出発 9:50 園内車椅子散策（歩道及び舗装路、勾配、砂利道の移動体験） 11:00 栗山高等学校学生 栗山公園出発 11:10 北海道介護福祉学校学生 介護福祉学校出発 11:15 振り返り、まとめ 12:10 終了 ※園内車椅子散策に関しては、文末の備考欄参照
使	用	物 品
		【北海道介護福祉学校備品等】 車椅子22台（予備3台）、空気入れ1台

【留意点】

- この体験を通して何を学ぶのか
 - ①高齢者の気持ちになって必要なことは何か？
 - ②介護者の気持ちになって必要なことは何か？

【使用資料（パワーポイント一部抜粋）】

＜ 高齢者にとっての外出の目的 ＞ 	＜ 大事なポイント ＞ ・ブレーキの確認 ・フットサポートに足を乗せ深く座る ・アームサポートにしっかりと掴まる 
--	---

< 車いすを使った外出のお手伝い > 【外出計画】 ●車いすでの移動が可能かどうか →トイレ・スロープや段差・休憩場所 ●距離と移動時間・移動方法 ●天候と持ち物	< 前回の車いすの授業で気になったこと > ・段差および車いす同士の衝突・走って押す 
---	---

【授業の様子】



【備考】

1 栗山公園での流れ

- ・北海道介護福祉学校学生 1 名＋栗山高等学校学生 2～3 名がペアになり（全 19 グループ）
- ・介護学生が筆頭となり車椅子の操作方法を指導
- ・19 グループが 1 列になり移動
前方（北海道介護福祉学校専任教員）、中間（高専連携支援員）、後方（非常勤講師）に職員配置
- ・第三駐車場⇄野球場観覧席付近⇄野球場横ベンチを往復し、利用者役、介護者役の両方を体験

2 栗山公園に行くうえでの注意点

- ・事故やトラブルが無いよう、安全面での介護を最優先で行う。
- ・他の来園者の移動の妨げにならぬよう、整列と前後の車間距離を保ちながら移動する。

【タイトル】 栗山と福祉（第4回）

～施設訪問事前指導（出張講義）～

【授業概要】

日	時	令和5年10月5日（木） 11:45～12:35
場	所	栗山高等学校 視聴覚室
対	象	北海道栗山高等学校1年生（50名）
担	当	北海道介護福祉学校校長および高専連携支援員
テ	ー	マ 高齢者とのコミュニケーション
ス	ケ	ジ ュ ー ル
	11:45	講義：年を取ると変わる体の動き 演習Ⅰ：人の前を通る時 演習Ⅱ：相手に何かを伝える時 講義：コミュニケーションについて 演習Ⅲ：気持ちのいい挨拶 演習Ⅳ：気持ちのいい言葉 講義：施設を訪問する時に気を付けてほしいこと
	12:35	終了
		※体験演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及びⅣに関しては、文末の備考欄参照
使	用	物 品
		【栗山高等学校学校備品等】 プロジェクター1台

【授業の様子】



【備考】

1 演習Ⅰ

①俯いて座っている方に対して歩きながら挨拶する

②俯いて座っている方に対して立ち止まり名前を呼んでから挨拶する

※①と②の違いを見て自分だったらどう感じるかを考えてもらう

2 演習Ⅱ

①紙に「私は将来/〇〇で活躍する/〇〇に/なることです」と4つに分けて記載する

②2人1組になり、記載した紙を丸めて相手に投げる

③受け取った人が紙を広げてみた時に何が伝わるのか（全て受け取れない場合もある）

3 演習Ⅲ

- ①2人1組になり笑顔を作る
- ②一緒に楽しく過ごそうという気持ちを込めて相手と5秒間目を合わせる
- ③互いに「〇〇さんこんにちは」とはっきりと明るい声で挨拶する

4 演習Ⅳ

- ①2人1組になり笑顔を作る
- ②一緒に楽しく過ごそうという気持ちを込めてスライドに出てくる言葉を伝える(例: よろしく)
- ③役割を交代してもう一度行う

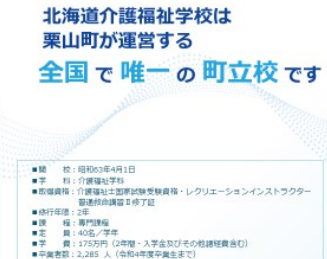
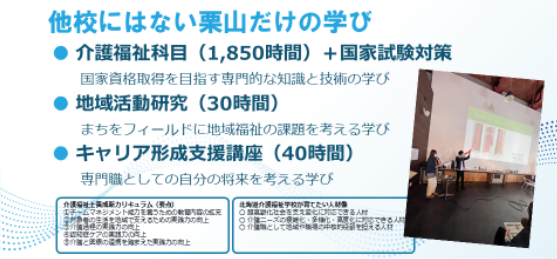
【タイトル】 栗山と福祉（第5.6回）

～特別養護老人ホームくりのさと、北海道介護福祉学校見学～

【授業概要】

日	時	令和5年10月10日（火）、11日（水）	10：45～12：35
場	所	特別養護老人ホームくりのさと、北海道介護福祉学校	
対	象	北海道栗山高等学校1年生（46名）10日1年1組23名、11日1年2組23名	
担	当	北海道介護福祉学校専任教員2名、事務局長および高専連携支援員	
テ	ー	栗山町内の社会資源の見学と理解	
ス	ケ	10：45 特別養護老人ホームくりのさと見学	
		11：45 北海道介護福祉学校 学校説明	
		12：05 校内案内、カリキュラムにおける一部体験	
		12：20 2年間の学校生活の紹介	
		12：35 終了	
		※学校説明および一部体験に関しては、文末の備考欄参照	
使	用	【北海道介護福祉学校備品等】	
物	品	特浴機器、ナノミストバス、モニター1台	

【使用資料（パワーポイント一部抜粋）】

 北海道介護福祉学校は栗山町が運営する全国で唯一の町立校です ■校 舎：昭和55年4月1日 ■学 科：介護福祉学科 ■設備：介護福祉士国家試験受験資格・レクリエーションストラクター・運動部活動室2棟あり ■修業年数：3年 ■課 程：専門課程 ■定 員：40名/学年 ■学 費：275万円（2年間・入学及びその経費等含む） ■卒業生数：2,285人（令和4年度卒業生まで）	 他校にはない栗山だけの学び ● 介護福祉科目（1,850時間）+ 国家試験対策 国家資格取得を目指す専門的な知識と技術の学び ● 地域活動研究（30時間） まちをフィールドに地域福祉の課題を考える学び ● キャリア形成支援講座（40時間） 専門職としての自分の将来を考える学び
 2月 ～地域活動研究報告会～	

【授業の様子】



学校説明



特浴機器体験



ナノミストバス体験

【備考】

1 学校説明

北海道介護福祉学校事務局長より以下の内容について説明した。

- ①現代の介護問題について（少子高齢化社会）
- ②介護福祉士の仕事について
- ③本校の特徴について（学費、独自のカリキュラム、国家試験合格率、就職率、編入率）
- ④栗山町について（アクセス、町の特徴、学生寮・アパート・下宿について）

2 一部体験

（１）特浴機器体験

実際にどのような介護場面で使用されるものなのか、機械の特徴、機械の操作方法

（２）ナノミストバス体験

実際にどのような介護場面で使用されるものなのか、機械の特徴、使用することでどのような効果をもたらすのか

【タイトル】 栗山と福祉（第7回）

～視覚障がい者の手引き歩行・白杖を使った歩行体験～

【授業概要】

日	時	令和5年11月6日（月） 13:20～15:10
場	所	北海道介護福祉学校 205 教室、講堂
対	象	北海道栗山高等学校1年生（43名）
担	当	北海道介護福祉学校専任教員および高専連携支援員
テ	ー	マ
ス	ケ	ジュール
		13:20 全体講義：視覚障がいがある人の状態像
		13:40 体験演習Ⅰ：①見え方の違い体験
		②白杖を使った歩行体験
		14:10 休憩
		14:20 体験演習Ⅱ：手引き歩行の体験（階段昇降、椅子への着座）
		14:50 全体のまとめ：感想、意見交換
		15:05 終了
		※体験演習Ⅰに関しては、文末の備考欄参照

使 用 物 品 【北海道介護福祉学校備品等】

アイマスク 16 枚、視覚障がい体験ゴーグル 3 セット、白杖 25 本
絨毯 3 枚、段差 3 個、パイプ椅子 3 脚

【留意点】

- この授業を通して考えるテーマ
 - ①見えにくいことで、どのような気持ちになるのだろうか？
 - ②見えにくいことで、生活の中でどのような影響があるのだろうか？
 - ③目の健康を保つためにはどのようなことが必要なのだろうか？
 これらを発表させ、全体で意見を共有した。

【使用資料（パワーポイント一部抜粋）】

見え方① 白内障 目のかすみ・色彩の変化・複視・羞明感	見え方② 緑内障 視野狭窄が進行・・・眼痛が伴い、失明に繋がる
生活の中で必要なこと・理解すべきこと①	生活の中で必要なこと・理解すべきこと③

【授業の様子】



講義



白杖を使った歩行体験



手引き歩行体験

【備考】

1 白杖とは

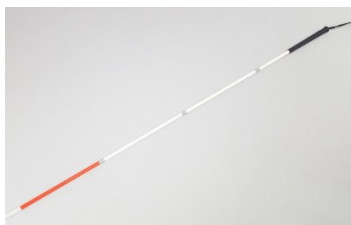
(1) 全盲、弱視、視野障がい、低視力などの視覚障がいのある方が、歩行する時に使用する白い杖のことをいう。

情報（周りの状況把握）、安全（身体の安全）、シンボル（自分の存在を知らせる）といった3つの機能がある。

(2) 留意点（手引き歩行ガイドヘルプ）

- ①利用者の正面から声をかける
- ②手の甲で合図をし、斜め前に立ち、肘をつかんでもらう
- ③狭いところは肘を曲げる
- ④動くとき、曲がる時は状況を分かりやすく説明する
- ⑤障害物の前では一旦停止する
- ⑥椅子やテーブル等には、実際に手で触れてもらう
- ⑦階段では、手すりに掴まり歩いてもらう

※講堂にて2人1組になり、1人が利用者役としてアイマスクを着用し、もう1人がガイドヘルプ役として絨毯や段差等の障害物を越えて椅子に座るという一連の流れを体験してもらった。

白杖の実物	視覚障がい体験ゴーグルの実物
 長さ 1m～1.4m 程度のものが一般的。脇の下までの長さのものを選定し、使用する。	 白内障や緑内障の方の物の見え方が体験出来るもの。

【タイトル】 栗山と福祉（第8回）
～パラスポーツ体験～

【授業概要】

日	時	令和5年11月10日（金）	13:20～15:10
場	所	栗山スポーツセンター	
対	象	北海道栗山高等学校1年生（50名） 北海道介護福祉学校1年生（19名）、2年生（22名）	計 91名
担	当	者	NPO法人 あ・りーさだ関係者
テ	ー	マ	地域共生社会におけるパラスポーツ等を体験する
スケ	ジ	ュ	ール
		13:20	講話
		13:50	体験
			①パラスポーツで使用する用具乗車体験
			②シッティングバレー
			③ブラインドサッカー
			④ボッチャ
		15:10	終了（介護学生は16時まで参加）
			※体験演習①、②、③及び④に関しては、文末の備考欄参照
使	用	物	品
			【北海道介護福祉学校備品等】
			プロジェクター1台、マイク、スクリーン
			【栗山スポーツセンター備品等】

【授業の様子】



乗車体験



シッティングバレー



ボッチャ

【備考】

1 目的

- ①共生社会を目指す視点で、誰もが共に楽しめるスポーツを知る。
- ②パラスポーツを実際に体験し、障がい者スポーツの実際を学ぶ。

※4つのブースに分け、時間ごとにそれぞれのブースをまわり体験する。

2 体験

①乗車体験

1. タンデム自転車



障がい者スポーツにあるパラサイクリングでも使用されている。
障がい者クラスの競技としてロード、トレックともタンデム自転車を使用したレースが実施されている。健常者が前席に乗り、視覚障がい者は後席に乗り競技を行う。

2. マラソン用車椅子



障がい者スポーツにある車椅子マラソンにて使用。
3 輪の競技用車いすに乗って専用のグローブをはめ、腕の力だけでリムを漕いで走る。

3. スポーツ用車椅子



車いすラグビー

車いすに乗って戦うラグビーで、四肢麻痺者など比較的思い障がいのある人が競技できるスポーツとして考案された。
攻撃型→細かい動きが出来るようにコンパクトな作りが特徴
守備型→相手の動きを止める為に突き出したバンパーが特徴

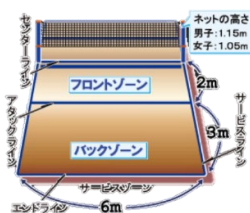


車いすバスケット

主に下肢などに障がいがある選手が車いすを巧みに操ってゴールを競い合うスポーツ。
前輪が小さく後輪が大きく、安定性と機動性を両立させたもので、安全面に配慮しベルトやストラップがついている。

②シッティングバレー

- ・座った姿勢で行うバレーボール。健常者も脚に障がいを持った人も共に楽しむことが出来る。



シッティングバレー

コート長さ 6m～10m。
1 セット 25 ポイント先取の 5 セットマッチで 6 人制で行う。
ネットの高さは男子 1.15m、女子 1.05m。

③ブラインドサッカー

- ・ゴールキーパー以外が全盲の選手で、アイマスクを装着し、音の出るボールを用いてサッカーをする。

	ブラインドサッカー 5人制で行う、フットサルをもとにルールが考案された。アイマスクを着用した4人のフィールドプレイヤーと晴眼者または弱視者がキーパーとなり行う。
	使用されるボール 大きさはフットサルと同じだが、ボールの内部に金属のプレートが取り付けられており、転がると音が鳴る構造。音が鳴ることでフィールドプレイヤーたちはボールの位置や転がり方を把握することができる。

④ボッチャ

- ・年齢、性別、障がいのあるなしに関わらず、全ての人が一緒に競い合えるスポーツ。
- 2チームに分かれ赤または青の革製ボールを6球ずつ投げ、「ジャックボール」と呼ばれる白い目標球にどれだけ近づけられるかを競う競技。

	ボッチャ 使用するコートサイズはおおよそバドミントンコート程度の大きさ。先攻、後攻が1球ずつ投げた後ジャックボールから遠いチームが相手よりも近づくか、ボールがなくなるまで投げる。両チームが6球全て投げ終わったら審判が得点を判定する。
--	--

【タイトル】 栗山と福祉（第9回）

～ブラインドマラソンとインディアカの体験～

【授業概要】

日	時	令和5年12月6日（水）	13:20～15:10
場	所	北海道栗山高等学校	体育館
対	象	北海道栗山高等学校1年生（47名）	
		北海道介護福祉学校1年生（18名）	計 65名
担	当	者	北海道介護福祉学校専任教員および高専連携支援員
テ	ー	マ	パラスポーツを通して「できる可能性」を考える
ス	ケ	ジ	ュ
ュ	ー	ル	
		13:20	全体説明・講義
		13:30	体験演習Ⅰ：ブラインドマラソン（並走・伴走体験）
		14:00	グループワークⅠ：体験演習を終えての気づきと感想
		14:10	休憩
		14:20	体験演習Ⅱ：インディアカ（サーブ&キャッチ・レシーブ&ラリー）
		15:00	グループワークⅡ：体験演習を終えての気づきと感想
		15:10	終了

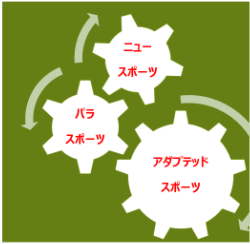
※体験演習ⅠおよびⅡに関しては、文末の備考欄参照

使	用	物	品	【北海道介護福祉学校備品等】
				アイマスク 16枚、インディアカ 20個、きずな 20本、電子ホイッスル
				ストップウォッチ
				【栗山高等学校備品等】
				バドミントン（支柱 8本、ネット 4張）、コーン 8個、プロジェクター1台

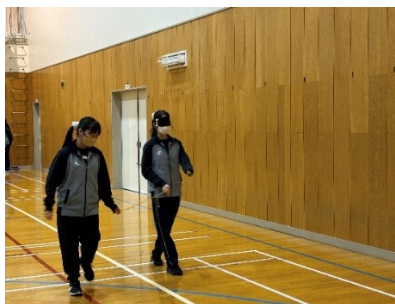
【留意点】

- 1 グループワークを実施する上でのテーマ
 - ①パラスポーツにはどのような人たちが参加・交流が出来るのだろうか？
 - ②今回の内容を実施するために「配慮」すべきことは何か？
 - ③私たちがパラスポーツを知ったことで、今後に生かせることは何か？これらをグループで協議・発表させ、全体で意見を共有した。

【使用資料（パワーポイント一部抜粋）】

日本のパラスポーツ誕生の契機（一部抜粋） 【第二次世界大戦後】 ・身体障害者福祉法の成立（1949年） 戦争により多くの傷を負った人への日常生活や社会生活を総合的に支援する政策 ・1960年 中村 裕医師（整形外科医）が英国の留学を契機に、リハビリテーションの一環としてのスポーツを提案し、車いすの人が参加できる競技として国内大会の開催、1964年の東京パラリンピックの開催に尽力した。パラスポーツの父と呼ばれている。 ※ paraplegia：対麻痺（身体障害による） 「Paralympic Games」 ※ Olympics：オリンピック	スポーツそのものの多様性 【ニュー スポーツ】 ・子どもから高齢者まで参加でき、簡単にアレンジされているスポーツをいう。レクリエーションとしても実施できる。 【パラ スポーツ】 para（並行する） ・障がい者（身体・知的・精神）が行えるスポーツを改定、考案しながら、誰もが参加し、楽しめるものをいう。 【アダプテッド スポーツ】 ・誰もが参加しやすいように、ルールや用具を工夫し、適合（adapt）させたスポーツをいう。 
---	---

【授業の様子】



ブラインドマラソン



インディアカ



グループワーク

【備考】

1 ブラインドマラソンとは

(1) 視覚障がい者が行うマラソン競技。「きずな」を使用し視覚障がい者と伴走者が一緒に走る。

(2) 伴走者の役割…①障がい者ランナーの安全確保・状況説明

②理想のフォームで走ってもらえるような伴走

③走路、ペースなどの指導と楽しく、楽に走れるようなエスコート

④タイムなどの記録

(3) 留意点

障がい者ランナーは足元の不安から歩幅が狭くなりがちなので、伴走者は少しでもその不安を和らげ、安心して走れると感じてもらうことが必要(信頼)。手の振り、スピードを合わせてほしいと言いつけないこともあるので、相手が言いやすい雰囲気づくりを考える(気遣い)。

※きずなとは伴走時、障がい者ランナーと伴走者を繋ぐもの

	きずなの実物 約 1 メートルの長さの紐を輪にして使用する。		きずなの代用品 今回は輪ゴムを 3 つ組み合わせて作成して代用した。 写真下…50 cm定規
---	--	--	--

2 インディアカとは

羽根のついたシャトルcock上のボール(羽根つきボール)を、平手で打ってネットを挟んで相対した2チームが、互いに平手で打ちあう団体競技。サーブから初め、レシーブ・トス・アタックの三段構造で敵陣に3回以内でボールを返す。

※今回は 8~9 人グループを 8 つ作り、バドミントンコートを半面ずつ使用し、各グループに 2~3 個羽根つきボールを配布し実施した。



インディアカ写真

【タイトル】 栗山と福祉（第10回）
～福祉機器の見学・体験～

【授業概要】

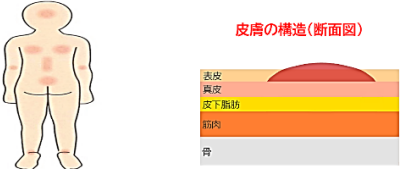
日	時	令和6年2月5日（月）	13:20～15:10
場	所	北海道介護福祉学校	
対	象	北海道栗山高等学校1年生 44名、	
担	当	介護福祉学校専任教員、高専連携支援員 および特別養護老人ホーム南幌みどり苑施設長	
テ	ー	マ 変化してゆく福祉・介護の現場～高齢者施設の実践・ICT化から考える事～	
ス	ケ	ジ ュ ー ル	
		13:20	南幌みどり苑 佐久間施設長 講義
		14:10	講義終了
		14:20	福祉機器見学・体験
			1組：移乗・移動関連用具（第2介護実習室）
			2組：移動用リフト実演・体験（第3介護実習室）
		14:45	福祉機器見学・体験
			2組：移乗・移動関連用具（第2介護実習室）
			1組：移動用リフト実演・体験（第3介護実習室）
		15:10	終了

※福祉機器見学・体験に関しては、文末の備考欄参照

使 用 物 品 【北海道介護福祉学校備品等】

プロジェクター1台、電動ベッド3台、シーツ3枚、枕3個、枕カバー3個、スライディングボード5枚、スライディングシート1枚、標準型車いす2台、モジュール型車いす3台、リクライニング車いす1台、多機能型歩行車1台、室内用歩行器1台、床走行式リフト1台、スリングシート1枚、エアマット1台、センサーマット1台、エアークッション1個、ビーズクッション2個、棒座2個、ビーズスティック2個、クッション2個、抱き枕1個、椅子1脚

【使用資料（パワーポイント一部抜粋）】

本日のねらい - 福祉用具は、誰の、何のためのものかを考えてみましょう。 - 見学や体験を通して、使う人にとってどのような目的や効果があるのかを考えてみましょう。 今、私たちが出来ること、行うべきことは何かを考えてみましょう。	【備考】床ずれが発生しやすい部位（仰向け） 
床走行式 電動介護用リフト 【状態像】 ベッドからの起き上がりや立ち上がり、歩行が困難な人 【使用すべき場面】 ベッド ⇄ 車いす等、移動動作が必要とき 【効果】 吊り具を使用して移動することで、介護者、利用者の身体的負担が軽減 	スライディングシート  【状態像】 自力で移動することが困難な方 【使用すべき場面】 寝返りや車椅子、ストレッチャーなど移乗・移動動作が必要とき 【効果】 自分の力を活用しながら移動できる（上方移動など） また、摩擦などの負担がなく安全に移動できる

【授業の様子】



講義



移動用リフト実演・体験



床ずれ防止用具



移乗・移動関連用具



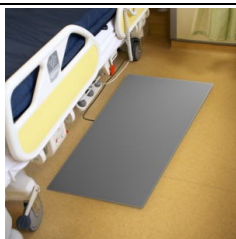
移乗・移動関連用具



移乗・移動関連用具

【備考】

1 離床センサー（シート・マットタイプ）



ベッドからの起き上がりや、立ち上がりに不安がある方などが使用する。病院や施設などのベッドに付属し、身体動作をセンサーで感知して介護者に知らせ、移動動作の見守りを行う。
使用することでベッドからの転落や転倒を防ぐことができる。

2 エアーマット（床ずれ防止用具）



病気や治療により、ベッド上での寝たきりが続き、寝返りが困難な方などが使用。使用することで寝ている状態により、かかる体圧を分散し皮膚の圧迫を避ける。
使用することでベッド上で過ごす時間が増えても、床ずれを防止することができる。

3 ビーズクッション（床ずれ防止用具）



病気や治療により、ベッド上での寝たきりが続き、寝返りが困難な方などが使用。使用することで寝ている状態により、かかる体圧を分散し皮膚の圧迫を避ける。
使用することで関節部位の筋緊張を和らげながら、床ずれを防止することができる。

4 床走行式電動介護用リフト



ベッドからの起き上がりや立ち上がりが困難な方などが、ベッドから車いすなど移動動作が必要なときに使用する。釣り具を使用して移動することで、介護者と利用者の身体的負担が軽減される。

5 電動ベッド



休息や睡眠を図る時、生活動作（食事や口腔ケア）をする時などに使用する。背上げ機能や足上げ機能・上下機能の活用により寝たきりを防止し、ベッド上で行えることが増える。また、介護者の負担軽減にもつながる。

6 スライディングボード



膝や股関節に痛みがあり、立ち上がりが困難な方などが使用する。車椅子からベッド、椅子、トイレ、車などに座った状態でお尻を滑らせ、自分の力を活用しながら移乗することができる。

7 スライディングシート



自力で移動することが困難な方などが移動する使用。自分の力を活用しながら寝返りや車いす、ストレッチャーなどへ移動することができる。

8 モジュール型車いす（最新型）



長時間の歩行が困難な方などが移動する際使用。背張り機能や座面の高さ調節などがついているため、自分に合った車いすに変えることができる。長時間安定して乗ることが出来るため、外出先が増え行動範囲を広げる支援につながる。

9 リクライニング車いす



全介助や血圧に変動のある方（長時間座っているのが困難）などが移動する際使用。フラットな状態にできるので、寝たきりの方でも車椅子を使用することで外出先が増え、寝たきりを防止できる。

1 0 多機能型歩行車



一人で歩くのは困難だが、何かに掴まりながら歩行できる方などが室内、外で歩く際使用する。前輪がダブルキャスターになっているため、外出先で地盤が悪いところでも安定して移動することができ、椅子がついているため小休憩をとることもできる。

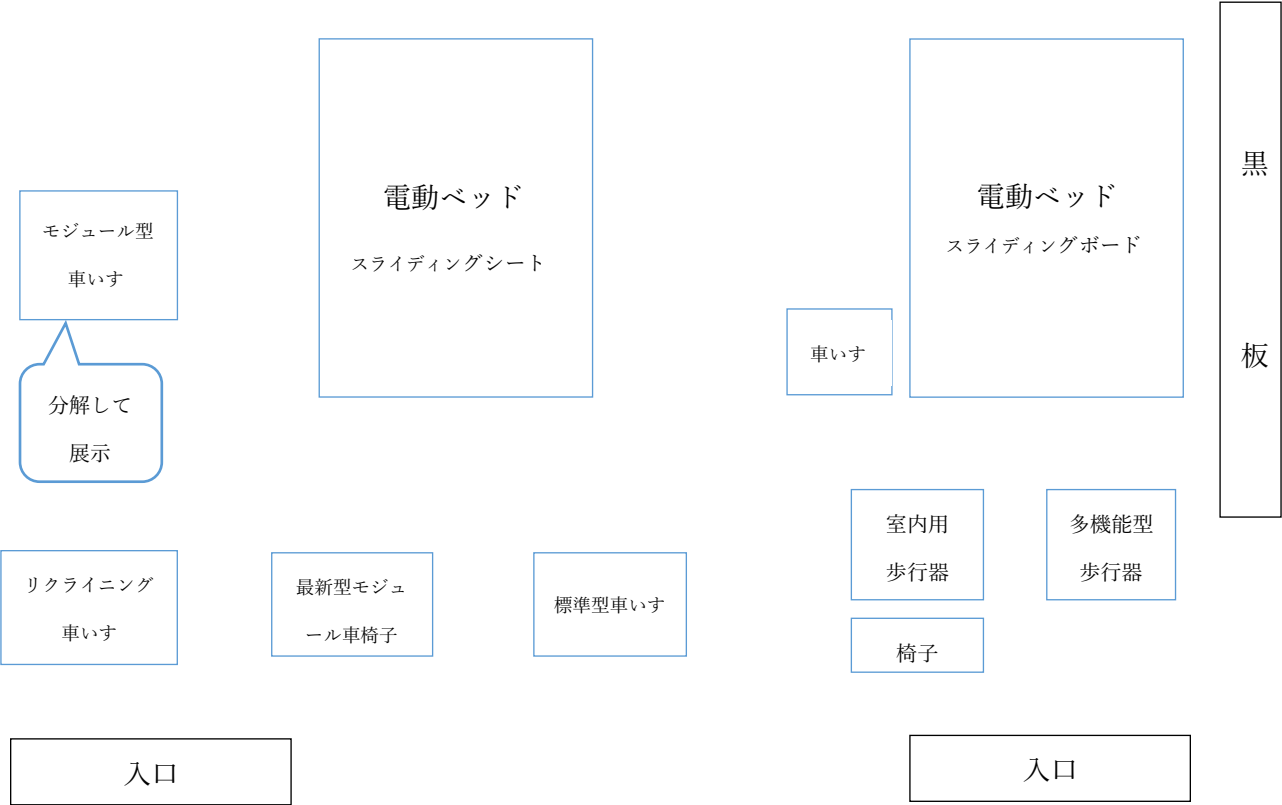
1 1 室内用歩行器



一人で歩くのは困難だが、何かに掴まりながら歩行できる方などが移動する際室内で使用。軽くて小回りが利くので、室内でも転倒リスクが少なく移動することができる。

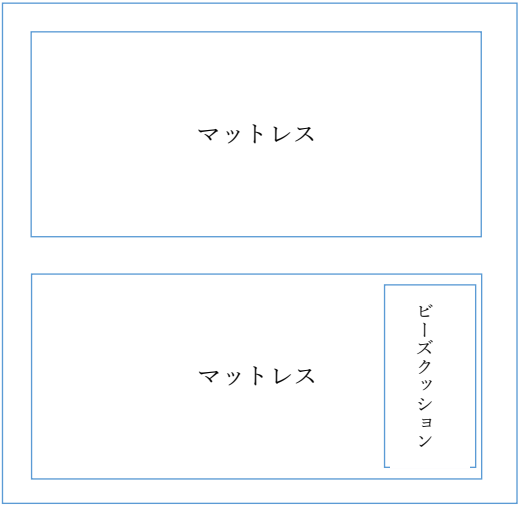
※各福祉用具に 4～5 名高校生を配置し、ローテーションしながら全福祉用具を体験する

第 2 介護実習室の見取り図

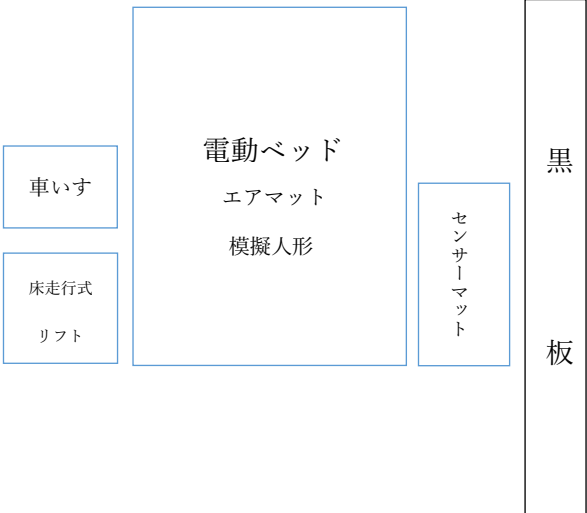


第3 介護実習室の見取り図

畳



入口



入口